2006年2月

立正地理学会ニュース

No.86

THE RISSHO GEOGRAPHICAL ASSOCIATION NEWSLETTER

学会ニュースNo.86　トピックス
・2006年度総会・研究発表大会会告
・評議員会会告・隣地研究会報告
・会員の声・地理の言葉・お知らせ

会　告

◯2006年度総会・研究発表大会の開催について

2006年度(第61回)立正地理学会総会・研究発表大会を下記の要領にて開催いたします.

記

1. 日時：2006年6月3日(土)　９：２０より
2. 会場：立正大学熊谷校舎6号館(6101, 6102, 6201教室)
　※当日，校内に案内を掲示いたします.
3. 総会委任状について
　総会委任状は，次号の学会ニュースに同封いたします.
4. 昼食
　学生食堂が営業しております.
5. 懇親会
　1)会場：立正大学熊谷校舎学生食堂(ステラ)
　2)会費：一般4,000円，学生2,000円
　3)時間：17:00～19:00
6. 発表申込について
　・発表希望者は，2頁の発表申込用紙に所定事項を記入の上，2006年3月31日(金)までに，集会委員会宛で送付してください.
　※メールでも受け付けております．申込用紙と同内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい．アドレス：geosoc@ris.ac.jp
　・発表の形式は，口頭発表とポスター発表があります．どちらかを選択して下さい.
　・発表要旨集は作成しません．発表者は必要に応じて発表資料を用意して下さい.
　・スライド・OHP・液晶プロジェクター使用の場合はその旨を明記して下さい(パソコンはこちらで用意します．プレゼンテーションソフトはPowerPoint2003です).
　・研究発表者は，研究発表要旨を必ずご提出下さい．研究発表要旨は『地域研究』に掲載いたします.『地域研究』の執筆要項にしたがってご執筆の上，大会当日に編集委員会までご提出下さい.
7. 研究発表大会プログラム・会場案内について
　研究発表大会プログラム・会場案内については，次号学会ニュース(2006年5月発送予定)，ならびに学会ホームページ(http://www.ris.ac.jp/geosoc/)に掲載いたします.
8. 展示について
　例年，地理関係出版社の出版案内や図書販売などがおこなわれています．個人向けの展示スペースも確保しておりますので，地図等の展示を希望される方は，集会委員会までご照会下さい.

◯2006年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2006年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします.

1. 日時：2006年6月2日（金）18:00より
2. 場所：立正大学熊谷校舎
3. 議題：
   1. 2005年度事業報告の件
   2. 2005年度決算報告の件
   3. 2006年度事業計画案の件
   4. 2006年度予算案の件
   5. その他（他に議題のある評議員の方は，集会委員までお知らせ下さい.）

※詳細については，次号ニュースにて評議員の方に同封する出欠ハガキをご確認下さい.

◯地理写真展作品の募集

立正地理学会総会・研究発表大会と同時に，地理写真展を開催いたします．会員諸氏が自ら撮影し，地域の特徴をよくとらえていると思われる写真の出展をお願いいたします．出展者は2006年3月31日(金)までに3頁の地理写真申込用紙に所定事項を記入の上，集会委員会に送付してください．※メールでも受け付けております．申込用紙と同内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい．アドレス：geosoc@ris.ac.jp

写真は，大会当日に3頁の様式にしたがって作成したものを持参し，所定の場所に展示願います．大会終了後は，各自でお持ち帰り下さい.

2006年度　研究発表大会　発表申込用紙

・発表者氏名・所属(共同発表の場合は，発表者に◯印をつけて下さい)
. 発表題目：
(↓いずれかを◯でかこんで下さい) ・発　表　形　式　：　口頭発表　・　ポスター発表 ス　ラ　イ　ド　：　使用する　・　使用しない Ｏ　Ｈ　Ｐ　：　使用する　・　使用しない 液晶プロジェクター：　使用する　・　使用しない
・連絡先 氏　　名： 住　　所：〒　　－ 電話番号：　　－　　－　　（　自宅　・　勤務先　） e-mail：

2006年2月

地理写真展申込用紙

・氏名(所属)：
・テーマ：
・連絡先 住　　所：〒　　－ 電話番号：　　－　　－　　（　自宅　・　勤務先　） e-mail：

※発表申込用紙・地理写真展申込用紙はコピーの上，ご利用下さい．

【地理写真展　様式】

・A1(594×841mm)の台紙をタテに使用してください

※1　写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です．

※2　キャプションには，内容・場所・撮影日時など，撮影時の状況を付記願います．

（作成例）

テーマ
氏名(所属)

写真（※1）	写真（※1）

キャプション(※2)

写真（※1）	写真（※1）

キャプション(※2)

○隣地研究会報告

第101回臨地研究会報告

秋晴れの2005年11月13日（日），「品川と目黒川下流域の地域層と環境変化」をテーマとした第101回臨地研究会が開催された．案内者は大塚昌利会員（立正大），原美登里会員（立正大），参加者は18名であった．

一行は，大崎駅西口から屋根付き通路で結ばれている大崎ニューシティに集合した．大崎ニューシティを管轄する会社名は「大崎再開発ビル」という．ここでは，中牧崇会員から大崎駅前再開発についての説明を受け，隣接する再開発第2弾のゲートシティ大崎に移動した．大崎駅東口では，明電舎跡地の再開発が2007年の完成を目指し進んでいる．埼京線・りんかい線・湘南新宿ラインの乗り入れにより活気づく大崎駅界隈をあとに，しばらく旧工場地帯を歩く．駅から少し離れた工場の多くは，マンションと化した．かつては富士山を見ることができたという小高い展望台からは，増え続けるマンション群がよく見える．御殿山方面を左手に東へ進むと，東海道新幹線と東海道本線に挟まれた場所に沢庵和尚の墓がある．沢庵漬けの由来となった沢庵和尚は，出身地の但馬へ帰りたかったところだが，彼を気に入った徳川家光が，敷地5万坪の東海寺を造って住まわせたという．

かつては東海寺境内であった地を横断する山手通りから，目黒川沿いに歩みを進めた．かつて舟運が盛んであった目黒川の現在は，池尻大橋から上流部が暗渠，下流部が開渠となっている．流域の目黒区では親水機能を整備しているが，品川区では都市河川の典型ともいえる，いわゆる三面張りの様相を呈している．そのほとりには，熊本藩主細川家の墓所をみることができた．

急傾斜であった坂を，私財を投じてなだらかにした人名に由来するゼームス坂を上り，大井町駅界隈で昼食をとった．再び仙台藩屋敷跡に集合し，仙台坂を下り第一京浜，青物横丁駅を通り旧東海道・品川宿へ入った．この辺りは，江戸期とほとんど道幅が変わっていない貴重な区域である．そこには，品川寺(ほんせんじ)や南品川の総鎮守・荏原神社などがあり，他５つの由緒ある社寺と合わせて「東海七福神」として観光資源化されている．

旧東海道から外れ，現在は生活道路となっている旧目黒川河道を進む．品川区立台場小学校は，かつての御殿山下台場があった地に建っている．校門横には，別の台場にあった品川灯台が移設されている．小学校の少し北には漁村の鎮守・利田（かがた）神社があり，そこには1798年に品川沖に迷い込んできた鯨を供養した鯨塚を見ることができる．当時は海岸線が目前であったことだろう．

再び旧東海道へ戻り，幕末の歴史の舞台にもなった旅籠「土蔵相模」跡や問答河岸跡を北へ進むと，高層ビルが林立する区域に近づいた．品川駅東口再開発地区である．品川駅高輪口に対して裏口といった印象の強かった東口（港南口）だが，面目を一新した．衣食住を備えた再開発ビル群である「品川グランドコモンズ」内のセントラルガーデンにて，臨地研究会は解散となった．

かつては江戸の外だった品川が，時を経て東京の南の玄関口として脚光を浴びている．先達が目をつけた地域は，現代においても要衝でありつづけている．今回の臨地研究会は，品川の時代を超えて持ち続ける地域性と，次世代へ向けて新陳代謝をしている様子を学ぶことができた．最後に，素晴らしい資料の提供および案内をしていただいた大塚昌利会員，原美登里会員には，記して厚くお礼申し上げます．

（集会委員・岩谷宣行）

○会員の声

定時制の地理教育の現状

多田統一

定時制では，カリキュラムに地理が置かれていない学校が多く，たとえ置かれていてもＡの２単位が限界である．筆者は，前任校で地理がなかったため，５年間地理の授業を行なうことができなかった．地理歴史科の世界史Ａや公民科の現代社会などで地図を活用するなど，地理的な知識や地理的な見方・考え方を教えるよう工夫してきた．地理で教員になった者は，定時制勤務の期間，同じような経験をすることになる．

平成16年度に，都定通研地歴・公民部が教員に対するアンケート（30校の地理の教員に依頼し10校から回答を得る）を実施したが，実に興味深い結果が出ている．地図，地図帳については，地理歴史科の地理Ａだけではなく，世界史Ａや日本史Ａ，さらに公民科の現代社会などでも，積極的に活用している．身近な地域の学習についても，同じようなことが言える．日本史Ａや現代社会で導入しているケースが見られる．特に，地域史との関わりは，興味深い点が多い．視聴覚教材やコンピュータの活用については，定時制の生徒の実態を考慮して，ビデオ教材が積極的に導入されている．コンピュータは，思ったほど活用されていない．学習指導の方法については，講義式の授業が生徒の実態に合わなくなる中で，プリント学習などの工夫が行なわれている．特に，地理Ａにおいては，地図作業が取り入れられている．評価・評定については，考査の成績をベースに（60～80％の比重），その他提出物，学習態度，出席率などを加味している．特別教育活動との連携については，遠足や修学旅行などの学校行事の機会を積極的に活用している学校がある．「総合的な学習の時間」への取り組みについては，それぞれの学校の実情によっては地理との関わりの

ないケースも見られるが，学校全体として身近な地域学習に取り組んでいる先進的な定時制もある．定時制の教員が最も苦労している点は，授業のレベルをどの程度とするか，生徒に興味・関心を持たせるにはどうするかということである．授業目標も，そういった点を配慮したものになっている（地名・地図学習の重視，生徒の興味・関心，コミュニケーション能力の育成など）．その他，定通併修，単位制，三修制（地理Ａと大検，地理検との整合性），年間指導計画，週案，生徒個人カルテ，生徒による評価などの問題がある．

○地理の言葉　「活断層」

中村洋介

阪神･淡路大震災という未曾有の大災害を招いた1995年の兵庫県南部地震以降，『活断層』という言葉が世の中に急速に広まった．近年では東海地震の発生が切迫していることが複数の地震学者によって指摘されていることや，マンションの耐震設計の偽装が社会問題になっていることから，首都圏を中心として人々の地震に関する関心が高くなってきている．以下では，地震を引き起こす原因である活断層について，言葉の意味なども含め簡単に説明しようと思う．

まず，活断層という言葉であるが，日本語では「活動的な層の段差(＝食い違い)」と解釈することでなんとなく意味はわかる．しかし，英語に訳すとどうだろう．活断層は英語で*active fault*と呼ぶ．*active*は「活動的な，活発な」という意味なので問題はないが，*fault*は一般的には「失敗，過ち」という意味で使用する．実をいうと，断層(*fault*)という言葉はこの「失敗，過ち」に由来するものなのである．

話は産業革命時代のイギリスに遡る.当時のイギリスでは石炭が盛んに採掘されていた．当然のことながら石炭を大量に採掘できれば一攫千金も夢ではないのだが，ここで立ちはだかったのが何を隠そう断層なのであった．すなわち，せっかく石炭層を掘り当てても途中に断層が存在するとそこで地層が変わってしまうので，それ以上石炭を採掘できなくなってしまうのである．したがって，断層の存在は石炭の採掘を行う者にとってまさに死活問題であった．また，そのような背景から地層の構造を調べる学問である「構造地質学」が生まれ，断層の研究が一気に進んだ．

次に，活断層の定義について述べる．活断層の定義は「最近数十万年間に，おおむね千年から数万年の間隔で繰り返し動いてきた跡が地形に現れ，今後も活動を繰り返すと考えられる断層」(中田・今泉編：活断層デジタル詳細マップ)である．特に，「繰り返し動いてきた跡が地形に現れ」とあるが，これはその断層が活動した場合の地震の規模が非常に大きい(概ねＭ７以上)という意味の裏返しである．したがって，地震の痕跡が地形に残っていない断層は厳密には活断層と呼ばない．なお，私を含めた変動地形学の研究者は地震の痕跡が地形に残っている活断層を対象として，その断層で最後に地震が起こった時期や地震の再来間隔を見積もる研究等を行っている．

また，文部科学省では平成７年度より活断層調査を行う地方自治体に対して地震関係基礎調査交付金を交付している．交付金調査の対象になる活断層は，その断層が活動した場合にＭ７以上の地震を起こす可能性があり，また社会的，経済的に大きな影響を与えると考えられる全国98ヶ所の活断層である(平成17年に新たに12断層が加わった)．これらの活断層の評価については文部科学省のホームページ(http://www.jishin.go.jp/main/)にて公開されているので，時間があるときに同ページを参照されることをお薦めする．

○研究委員会報告

立正地理学会地理教育研究委員会における個人研究について

多田統一(東京都立荒川商業高)・上野英夫(千葉県立柏中央高)・中牧　崇(立正大・非)

2003年度に立ち上げた立正地理学会地理教育研究委員会の活動は，2005年度末で３年目を終えることができた[1)]．本稿では，研究委員会の活動の中心となった個人研究について取り上げる．

2003年９月の第１回集会では，個人研究の目的として，①各委員による中学校・高等学校・大学における具体的な指導事例の研究の報告を中心に行うことにより，議論を深めていくこと，②集会で報告した内容をもとに，立正地理学会研究発表大会で発表することにより，地理教育の現場に役立つものにしていくこと，の２点を確認した．集会は2006年３月で第13回を数え，上記の目的は一応達成できたと考えている．そのうち，上記②にあたる2004年度・2005年度立正地理学会研究発表大会での発表については表にまとめた．発表要旨は「地域研究」45-１および46-2を参照いただきたい．なお，2004年度大会における中牧　崇の発表をもとにした内容は，「地域研究」46-１に論文（研究ノート）として掲載された[2)]．

表　2004年度・2005年度の立正地理学会研究発表大会における個人研究での発表

発表年度	発表者名	発表題目	地域研究への発表要旨
2004年度	中牧　崇	高等学校の地理の学習実態と大学における地理学の授業実践に関する課題	45-1
2005年度	中牧　崇	地理的見方・考え方の構築に関する考察 －大学における教職課程の地理学の授業を通して－	46-2
2004年度	初沢敏生	福島大学教育学部における地理教育実践報告 －社会科の模擬授業づくりを通して－	45-1
2004年度	西　克幸	夏休みの課題としてのイラストマップ －その効果と問題点－	45-1

注：口頭発表とポスター発表の分を示した．また，発表要旨の掲載号は「地域研究」をさす．

このたび，立正地理学会地理教育研究委員会の活動の継続（2006～2008年度）が認められた．それゆえ，従来と同じように個人研究に重点をおくことにより，上記の目的の達成をさらにはかるともに，立正地理学会研究発表大会での発表や「地域研究」への投稿も進めていきたいと考えている．少子化，高等学校における世界史必修という厳しい状況下にありながら，現在も全国各地で多くの立正地理の卒業生・修了生が地理教育の現場で幅広く活躍を続けている．研究委員会の活動が，地理教育に携わる教員だけでなく，教員を目指す会員，地理教育に関心をもつ会員に少しでも役に立つことができれば幸いである．

注

1)2005度末時点での参加会員は，上野英夫（世話人），小川　護，高橋　健，多田統一(世話人代表)，中牧　崇(世話人)，西　克幸，初沢敏生，武者賢一，横山耕太(五十音順，敬称略)の９名である．

2)中牧　崇(2005)：高等学校における地理の学習実態に関する考察－大学生へのアンケート調査をもとに－．地域研究，46-1，80-87.

○お知らせ

今年度卒業予定の立正大学地理学科4年生の学生会員の皆様へ

この3月で卒業される学部4年生の学生会員の方々は，来年度以降も会員として継続されることをお薦めいたします．卒業式にて継続案内と郵便振替用紙を配布いたします．

年会費は一般会員4,000円，学生会員2,500円となっております．

引き続き立正地理学会会員として，学会活動にご参加下さい．学会ニュースやホームページなどで，学会活動のほか地理学教室の情報などを提供していきます．会員継続を是非ご検討下さい．

地理関連学会連合公開シンポジウム
地域多様性と共生社会－世界の持続的発展のために－　開催のご案内

日　程：2006年3月27日（月）（14時20分～17時00分）
場　所：埼玉会館小ホール（さいたま市浦和区高砂3-1-4，JR浦和駅(西口)下車徒歩6分）
交通案内：http://www.urawaphil.com/hall3.html
※　入場無料
基調講演「地域の個性を考える－地域主義の展開と地誌研究－」
（市川健夫：東京学芸大学名誉教授）
講演１「地域資産としての文化的景観」（金田章裕：京都大学教授）
講演２「地域の多様性と生態系」（牧田肇：弘前大学教授）
問い合わせ先：地理関連学会連合事務局（TEL 03-3815-1912 / FAX 03-3815-1672）
シンポジウムの趣旨： 科学技術の進歩，人間活動の拡大，そしてグローバリゼーションは，地球的規模で社会経済活動の均質・画一化をもたらし，地域の個性（地縁やコミュニティ）を急速に喪失させている．また，温暖化，地形改変，大気・海洋汚染，砂漠化，森林伐採，異常災害の発生などを通じて，長い年月をかけて人類が作り上げてきた地域生態システムが崩壊の危機に直面している．このような状況をふまえ，このシンポジウムでは，地理学の視点から地域生態システムの維持，管理に関する知識・知見を集約するとともに，「地域多様性」概念の重要性を広く社会にアピールする．

（福岡義隆）

原稿募集のお願い
会員の皆様からの原稿を募集しております．「会員の声」「地理の言葉」「スケッチ」や「地理写真」など皆様からの原稿をお待ちしております．

（編集委員会）

【地理学教室の風景】

地理学科卒業論文発表会　ポスター発表（立正大学熊谷校舎9号館1階ホール）

2006年1月28日
瀬戸撮影

地理学科の卒業論文発表会としては十数年ぶりに「復活」しました．熊谷校舎へ移転してからは，初めての卒業論文発表会でした．発表会は口頭発表とポスター発表とに分かれて行いました．各ゼミの代表者数名のポスターが並ぶ様は，圧巻でした．

地理学科卒業論文発表会　口頭発表（立正大学熊谷校舎6号館6201教室）

2006年1月28日
髙木撮影

口頭発表は，8名の代表者が発表を行いました．発表会場は学会さながらの熱気に包まれていました．来年度も実施する予定ですので，お時間ございましたら是非お出かけ下さい．

編集後記

今号は，発表大会などの会告のほか，会員の声や地理の言葉など盛りだくさんとなりました．ご協力いただいた会員諸氏に感謝いたします．諸般の都合で，ニュースの発行が遅れましたこと，お詫びいたします．

立正地理学会ニュース　No.86
2006年2月28日発行　　編集者　立正地理学会編集委員会
発行者　立正地理学会　　〒360-0194　熊谷市万吉1700　立正大学地理学教室内
電　話　048ー539－1660　　振　替　00130-8-13453
URL：http://www.ris.ac.jp/geosoc/　　e-mail：geosoc@ris.ac.jp